



医療法人 社団 亮正会 総合高津中央病院
川崎市高津区溝口1-16-7 TEL 044-822-6121
http://www.takatsuhosp.or.jp

新 高津中央病院だより

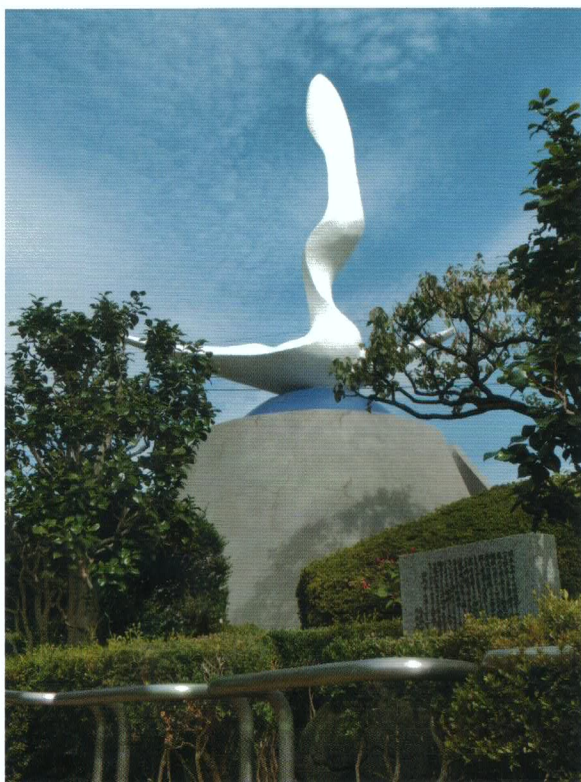
(財)日本医療機能評価機構認定病院

2014年◆秋号(2014年10月発行)

Vol.47

季節の写真館 岡本かの子文学碑

(母 かの子を追悼する岡本太郎作「誇り」
：二子神社境内)



巻頭言

耐震補強工事を終えて

病院長 小林 進



東日本大震災発生以降、建物の安全性確保が強く求められています。総合高津中央病院では平成20年竣工の2号館(外来棟)の安全性は確保されておりましたが、大地震発生時にも地域の医療に貢献し、患者様、職員の安心安全を守るために平成26年2月から1号館(入院棟)の耐震補強改修工事を開始し、同年9月に竣工いたしました。

耐震補強改修工事にあたり、施工方法や工事予定時間、工事個所の伝達など万全の配慮を行うよう努めてまいりましたが、当該工事に伴う騒音、振動、出入口一部制約および個室入居制限等、患者様には大変ご迷惑をお掛けしたことにお詫びを申し上げますとともに、8ヵ月間にわたり患者様、近隣の皆様にはご理解・ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

現在の耐震改修促進法等で耐震指標の判定基準として、建物の強度や粘り・その形状や経年状況を考慮した指標：Is値と、建物の形状(SD)や累積強度(CT)の指標：CT・SD値があり、安全の判定基準は $Is \geq 0.6$ かつ $CT \cdot SD$ 値 ≥ 0.3 となります。耐震改修は、耐震調査・診断の結果に基づき、建物の形態、構造や経済性、施工性などの条件を総合的に検討して、耐震壁や耐震ブレースによる耐震補強が行われます。総合高津中央病院1号館は上記判定基準を満たした耐震補強を行い、「地震の震動及び衝撃に対し倒壊、又は崩壊する危険性が低い」建物に生まれ変わりました。耐震補強改修工事に合わせ、患者支援センターの部屋を新設し、医師1名、看護師4名、社会福祉士(MSW)3名および事務員1名の新体制で10月1日からスタートしております。医局室内もリフォームを行い、10月1日から医師事務(MC)を2名増員し、医師が働きやすい環境づくりを進めております。また、1号館1階の廊下を全面張り替えするなど内装工事も積極的に行ってきました。

今後も、院内施設の老朽化した個所について修繕を進めていくとともに、病室の改修工事も順次進めていく予定であります。患者様のための、よりよい病院環境づくりに施設整備を進めていく所存であります。



鉄骨ブレース補強



柱巻補強



RC壁補強

総合高津中央病院 理念・基本方針

理念

医療を通じて地域社会に貢献します

基本方針

1. 地域の皆様に愛される病院、親切、迅速、奉仕について最善の努力をします
1. たゆみない研鑽と医道の高揚に努め、安全で質の高い開かれた医療の提供をめざします
1. 地域の救急医療に全力で対応します
1. 保健、福祉の全面的な支援を行います

名前 おち あきのり 越智 明德

卒業大学 昭和大学

卒業年度 平成22年

専門領域 内科（不整脈）

資格等 内科学会認定

自己紹介 10月から昭和大学病院循環器内科より赴任しました。循環器、特に不整脈領域では、大学病院とも連携を図り積極的に治療させて頂きたいと思っています。色々ご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いいたします。



名前 くぼた ゆたか 久保田 豊

卒業大学 東海大学

卒業年度 平成18年

専門領域 整形外科

自己紹介 10月に赴任いたしました。患者様の立場になって診療をいたします。よろしくお願いいたします。



患者支援センター 10月1日本格スタート!

「地域医療の要として我々は如何にあるべきか」それは当院に限らず、常に医療機関に突きつけられる課題です。殊に未曾有の超高齢社会が目前に差し迫っている現在、地域医療について社会全体で真剣に考えていかなければなりません。そこで当院では、平成26年10月1日より良い医療サービスの提供を目指して「患者支援センター」を開設しました。

当センターではPFM(Patient Flow Management)という手法を採用していますが、その機能を大きく3つに分けて簡潔に紹介します。

【その1 病床管理】

計画的に入退院を調整することで入院用ベッドを適正に管理します。さらに当センターには病床管理権限が付与されているので、緊急入院にもより迅速に対応できるようになりました。

【その2 早期退院支援】

入院前から、あるいは入院決定後速やかに看護師と医療ソーシャルワーカーが協力して退院支援



にあたり、早期退院できるようにします。

【その3 医療資源活用】

前述の病床管理と早期退院支援が適切に機能すれば、手術室や検査機器を最大限に活用してより良い医療サービスを提供できるようになり、地域医療の質を高めることにつながります。

退院支援!? 早期退院!? 何だか慌しい感じがしてしまいますね。しかし、病院に長期入院すると肺炎などの合併症を起こしたり、体力が回復しにくくなったりする可能性が高くなるので、入院前ないし入院決定後早期に退院後(=生活の場に戻る)のことを考えていくことが肝心です。

当センターは産声を上げたばかりで試行錯誤する毎日ですが、「皆さんと共に地域医療を創り上げて行きたい!」と一同かような思いで邁進して参りますので、今後とも患者支援センターをよろしくお願いいたします。

高津中央インフォメーション

＊ ＊糖尿病教室開催のお知らせ＊ ＊

平成26年度第2回の糖尿病教室を9月6日より4回シリーズで開催いたしました。糖尿病治療の最新情報から運動療法の実演、食事療法はワンコインランチ“食事療法を美味しく！楽しく！”をテーマとした食事会と色々な企画の組み込まれた教室でした。今回もたくさんの方が参加して下さいました。



そして11月には、第3回糖尿病教室が下記日程にて開催されます。血糖値の気になる方、療養中の方、是非一度糖尿病教室へいらっしゃいませんか。私たち糖尿病教室開催チームがサポートいたします。

日にち：11月1日・8日・15日・22日

時間：14：00～15：30

糖尿病の診断と治療	糖尿病の検査
日常生活について	お薬について
運動療法	食事療法について

問合せ先

TEL044-822-6133 栄養部（安田・阿部）

「初期消火訓練」と「深夜火災想定 の総合訓練」実施（9月18日）

◆初期消火訓練

消火器基本知識と操作を体験する訓練を実施。全部署参加で73名が参加しました。消火器の種類・機能の説明と操作指導・実演が行われました。



◆深夜火災想定 の総合防災訓練

今回は深夜帯での、病棟の火災発生を想定した総合防災訓練が実施され、総勢71名の参加のもと行われました。当日は、火災発生から初期消火、通報連絡、避難誘導、災害本部設置、情報収集と指示等の訓練を実施しました。また、栄養部による非常食の持ち運び訓練も行いました。



←担送患者、安全区画へ避難

↓非常食の運び出し



医師支援部の取組み

医師支援部主任 医局秘書兼メディカルクラーク
鈴木理恵

当部署が新設され早1年が経過しました。

医師支援部では医師の事務作業削減及び居心地の良い医局づくりを目標に、手探りではありますが業務を行って参りました。

その中で現在の外科および産婦人科での取組みをご紹介します。

昨年8月、新設当初は診断書の代行作成のみであった業務も、1年が経過し現在では

- ・ 診断書、診療情報提供書及び返書、退院サマリーの代行作成
- ・ 入院指示書、手術申込書の代行記載
- ・ 勉強会等の日程調整
- ・ カンファレンスの記録



- ・ 病棟回診同行、カルテ記載
- ・ 学会への症例登録

と、看護部・薬剤部・他職員の協力もあり順調に業務が拡大しつつあります。

この10月には新たに2名の医師事務作業補助者を迎え、更なる業務の発展とともに当院の掲げる「働きやすい、誇りを持って働ける職場環境づくり！」を目指し、笑顔の絶えない医局を作りたいと思います。

『整形外科』

～一般外傷、変性疾患からスポーツ外傷まで幅広く治療～

整形外科医師 久保田 豊



日本は世界にさきがけて高齢社会を迎え、2013年の平均寿命では男性80.21歳、女性86.61歳と初めて男女とも80歳を超えました。高齢社会に伴い、運動器の障害をきたす患者さんが増加しております。その背景にはやはり、骨粗鬆症が関係しており、本邦ではその患者数は約1300万人とも言われています。

入院して治療が必要となる運動器障害は50歳以降に多発しており、運動器を健康に保つことが難しいことを意味し、多くの人々がこれまで運動器をこれほど長期間使用し続ける時代はありませんでした。そこで、近年日本整形外科学会では、運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を表す新しい言葉として「ロコモティブシンドローム(以下「ロコモ」)(locomotive syndrome)」を提唱しました。(和文は「運動器症候群」)

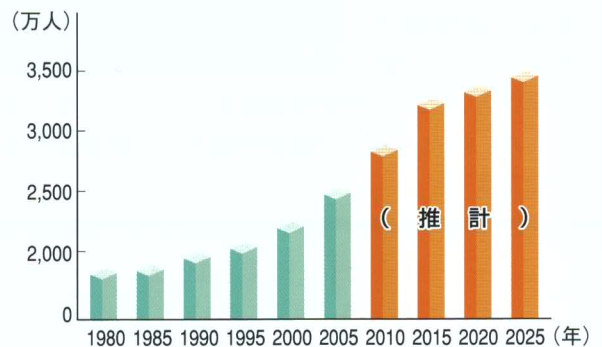
現在、骨粗鬆症やロコモティブシンドロームの予防・治療に積極的に食事・運動療法や投薬が行われて

います。また、このように脆弱性骨折で骨折してしまった患者さんにはより強度に固定ができるロッキングプレートの開発など、日々手術のインプラントも改良されております。

整形外科は小児から高齢者まで症例は多岐にわたります。当科では、地域の中核病院として、一般外傷はもちろんのこと、脊椎・股関節・膝関節などの変性疾患、スポーツ外傷(前十字靭帯損傷など)まで含めて幅広く治療を行っております。手術時間も可能な限り短縮し、術後の合併症を起こさないように努めております。ナース・リハビリ・事務スタッフと連携をとりながら、今後も患者さんに満足していただけるように日々励んでまいります。

■65歳以上の人口の推移

(国立社会保障・人口問題研究所)

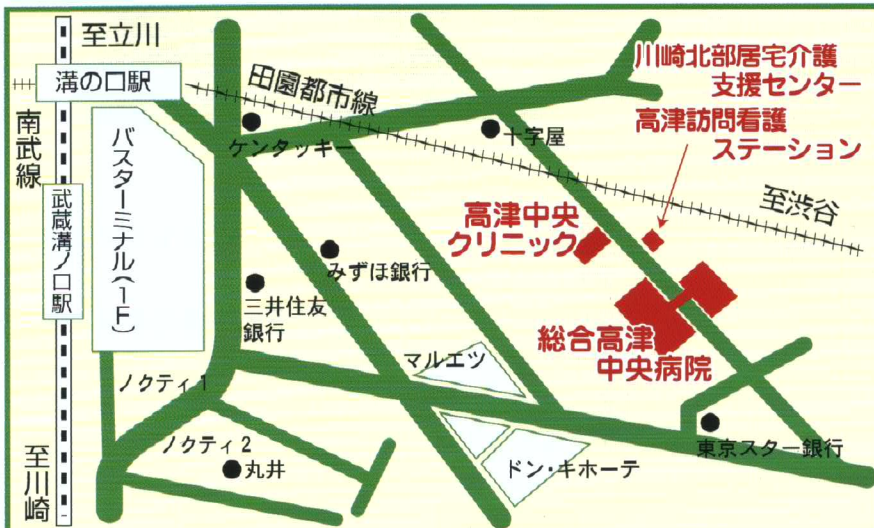


個人情報保護方針

情報社会において、個人情報の保護は非常に重要な課題です。

総合高津中央病院では、個人情報を適切に管理することを社会的責務と考え、個人情報保護に関する方針を以下のとおり定め、職員及び関係者に周知徹底を図り、これまで以上に個人情報保護に努めます。

- 個人情報の収集・利用・提供**
個人情報の保護・管理する体制を確立し、適切な個人情報の収集、利用および提供に関する内部規則を定め、これを遵守します。
- 個人情報の安全対策**
個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などに関する万全の予防措置を講ずることにより、個人情報の安全性・正確性の確保を図り、万一の問題発生時には速やかな是正対策を実施します。
- 個人情報に関する法令・規範の遵守**
個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。
- 教育および継続的改善**
個人情報保護体制を適切に維持するため、職員の教育・研修を徹底し、内部規則を継続的に見直し、改善します。
- 診療情報の提供・開示**
診療情報の提供・開示に関しては、別に定めます。



▶ 総合高津中央病院

川崎市高津区溝口1-16-7
TEL (044) 822-6121 (代)
<http://www.takatsuhosp.or.jp>

▶ 高津中央クリニック(健診)

川崎市高津区溝口1-16-3
TEL (044) 822-1278 (代)
<http://www.takatsuhosp.or.jp/clinic/>

▶ 川崎北部居宅介護支援センター

川崎市高津区溝口1-17-5
TEL (044) 822-6159 (代)

▶ 高津訪問看護ステーション

川崎市高津区溝口1-17-1
TEL (044) 822-1287 (代)